熊取町埋蔵文化財調査報告第10集

大久保Ｄ遺跡発掘調査概要・Ⅰ

―大久保Ｄ遺跡88年－１区の調査―

１９８９年　３月

熊取町教育委員会

大久保D遺跡発掘調査概要・1　正誤表

ページ	行	誤	正
P 8	7行目	土層断面で確認が検出	土層断面で確認され

はしがき

熊取町西部の住吉川の川岸段丘から派生する氾濫原における文化財調査は、今まで実施されておらず、これまで数カ所の遺跡が文化財分布図によって知られているだけです。

このたび大久保D遺跡の発掘調査を実施しましたところ、磨製石斧やサヌカイト製の石錐などが出土しました。これらの遺物から周辺での弥生遺跡の存在が想定されますが、今後の調査によって新たな知見が得られることと思われます。

なお現地での調査及び本書の作成にあたってご尽力、ご協力をいただきました方々、並びに関係者各位に対し、深く感謝の意を表します。また、今後の調査にご協力、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成元年3月

熊取町教育委員会

教育長　山中長正

例　　言

1. 本書は、熊取町教育委員会が、昭和６３年度に実施した大久保Ｄ遺跡の調査概要報告書である。

2. 調査と整理は、熊取町教育委員会発掘調査嘱託員井田匡を担当者として、昭和６３年１０月２０日に着手し、平成元年３月３１日終了した。

3. 調査に要した費用の全額は小西恵子氏の負担によるものである。

4. 調査の実施と整理にあたっては、久世公一、井手口大作、池辺吉也、富村伊都子、高垣香織、辻本栄子、安福佳代の諸氏の参加を得た。また、谷和開発・合田建築設計事務所・竹口文化財土木工業所並びに関係各位より多大な協力を得た。明記して感謝の意を表したい。

4. 本書中の標高は、東京湾平均海水面を基準とし、方位は、地図以外は磁北を示すものとした。

5. 本書の執筆及び編集は、井田がおこなった。

6. 調査にあたっては、写真・実測図等の記録を作成するとともにカラースライドを作成した。広く利用されることを望む。

目　　次

第 1 章　沿　　革

第 1 節　調査に至る経過 …… 1

第 2 節　位置と遺跡の環境 …… 1

第 3 節　地区の名称および遺構の呼称について …… 2

第 2 章　調査の成果

第 1 節　遺跡の概要 …… 3

第 2 節　遺構と遺物 …… 3

第 3 節　包含層の出土遺物 …… 6

第 4 節　遺構の遺物 …… 6

第 5 節　ま と め …… 8

図 版 目 次

図版第一　遺構検出状況

図版第二　遺構検出状況

図版第三　遺構検出状況　出土遺物

図版第四　出土遺物　大久保B遺跡出土石鏃および弥生土器

挿 図 目 次

第 1 図　熊取町の位置 …… 1

第 2 図　調査地位置図 …… 2

第 3 図　調査地区割り図 …… 2

第 4 図　平　面　図 …… 4 ～5

第 5 図　出土遺物(1) …… 7

第 6 図　出土遺物(2) …… 8

第 7 図　出土遺物(3) …… 8

第 8 図　周辺の小字名 …… 9～10

大久保Ｄ遺跡発掘調査概要・Ⅰ

第１章　沿　　革

第１節　調査に至る経過

熊取町大字大久保３２３番地において、小西恵子氏が共同住宅の建築を計画し、昭和６３年８月２９日付で文化庁へ土木工事に伴う埋蔵文化財の発掘届出書が提出され、熊取町教育委員会へ、埋蔵文化財包蔵地の存在確認に伴う技師派遣依頼が提出された。

これを受けて、熊取町教育委員会では同年９月３日に、機械により試掘調査を実施し、遺構及び遺物包含層を確認した。これに基づいて遺跡の取り扱いについて、熊取町教育委員会と小西恵子氏の双方で協議を重ねて行ない共同住宅の建築することにより破壊される恐れのある箇所について、遺跡の重要性に鑑み調査を実施することで合意した。

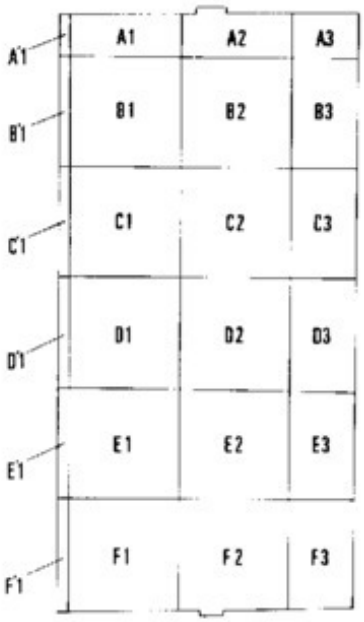
第２節　位置と遺跡の環境

大久保Ｄ遺跡は、大阪府泉南郡熊取町大久保に所在し、ＪＲ阪和線熊取駅周辺に位置している。付近の地形は埋積谷と段丘面と氾濫原で構成されており、標高は海抜１８ｍから２６ｍを測る。大久保Ｄ遺跡では、弥生時代から近世にかけての遺物が散布している。遺跡の範囲は、泉佐野市所在の三念寺池から東への段丘にかけて、東西約２５０ｍ、南北約２００ｍの範囲の広がりを持つ。

第１図　熊取町の位置

第２図　調査地位置図

大久保Ｄ遺跡の存在する住吉川流域には、他にも遺跡が多く存在しており、熊取町内では大浦中世墓地・東円寺跡・口無池遺跡・紺屋遺跡・大久保Ｃ遺跡・大久保Ｂ遺跡が存在し、更に下流の泉佐野市域では、山出遺跡・檀波羅密寺・井原の里遺跡・湊遺跡などが存在するが、住吉川流域周辺では、新たに遺跡が発見される可能性は極めて高く、その位置と範囲の確定と性格の把握は今後の課題であろう。



第３図　調査地区割り図

第３節　地区の名称と遺構の呼称について

調査地内では、５ｍ四方の調査地区の地区割りを実施した。南北方向は、アルファベットによる地区名で呼称し、Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄと表す事とした。東西方向は、アラビア数字による地区名で呼称し、１・２・３・４と表す事とする。

本書中でも遺構の位置等の表し方は、これに準じて、Ａ１、Ａ２と表す事とする。また、今

回の調査地での南北の基準線は東へ約２２°ふっている。更に、調査を実施する際に遺構については、検出した順に遺構の略称と番号を組み合わせて呼称することとした。略称は溝をＳＤ、柱穴をＰｉｔ、土壙をＳＫ、柵列・坑列をＳＡ，自然流路をＮＲ，その他の遺構をＳＸと呼称したが、本書中でもこれに準じてＳＤ－１、ＳＫ－１と呼称することとする。

第２章　調査の成果

第１節　遺跡の概要

調査を実施した地点は、小字名では大久保領牛神と呼ばれる地点であり、遺跡範囲の南端で大久保Ｂ遺跡に接している。現状は水田で、地表面のレベルは北側の水田より、約３０cm程低い。

検出した遺構としては、溝が１条、柱穴が約２０基、土壙が１基、不整形土壙を２基、自然流路を１条検出した。遺物は総体的にみて少ない量であった。主に中世以降のものであるが、弥生時代の遺物も出土している。

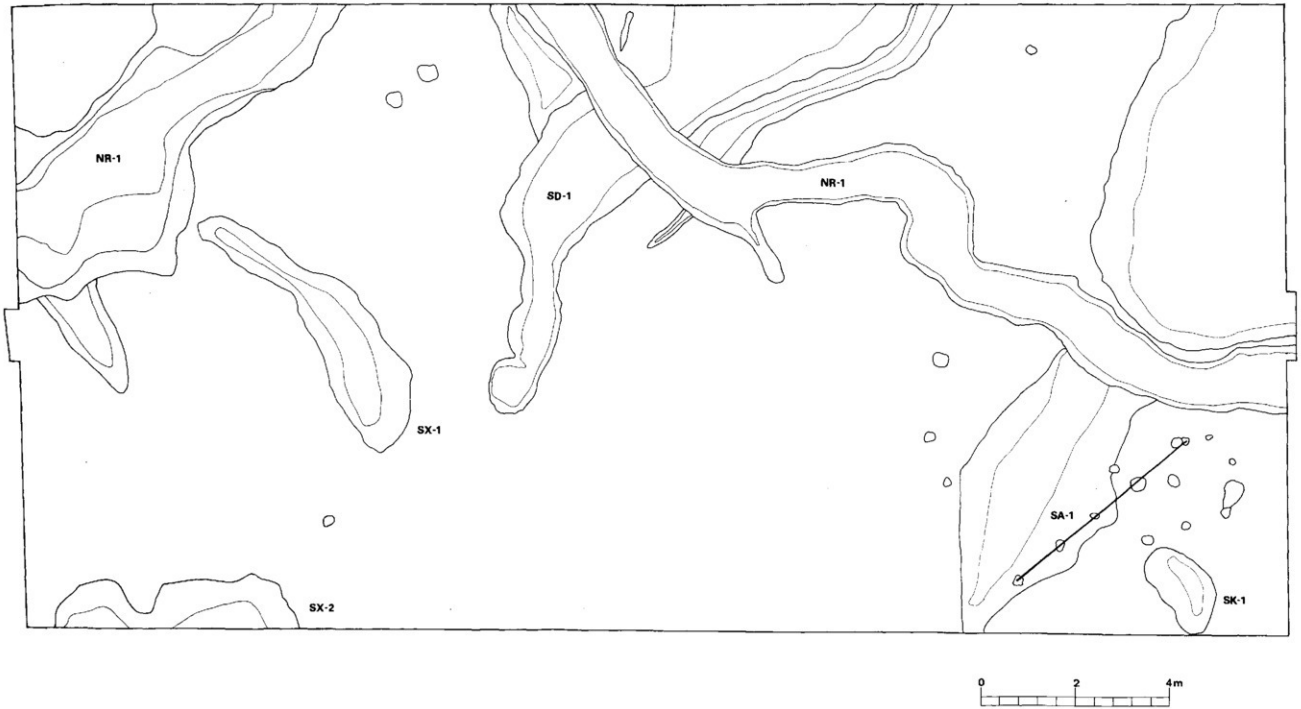
第２節　遺構と遺物

①　自然流路　ＮＲ－１

ＮＲ－１は調査地の西半で検出された川（自然流路）である。巾は１．２ｍ前後を測り、深さは約６０cmを測る。遺構自体は自然に埋積したようである。遺物はサヌカイトの製品（錐）と泥岩製の石斧と少量の弥生土器の破片が出土している。

②　ＳＤ－１

ＳＤ－１は調査区Ｄ２で検出された溝で、巾は約２ｍを測る。深さは５０cm前後を測る。埋土は紫灰色粘質土である。遺物は弥生土器の破片が少量出土している。



第４図　平面図

③　ＳＫ－１

ＳＫ－１は調査区Ａ２で検出した土壙で長軸は２ｍ以上を測り、短軸は１．２ｍを測る。埋土は紫灰色粘土である。遺物は出土しなかったが遺構の埋土に少量の炭が混じる。

④　Ｐｉｔ

調査地内で柱穴を検出した。直径は１５㎝～２０㎝を測り、深さは２０㎝前後を測る。いずれの柱穴も遺物は出土していない。

⑤　ＳＡ－１

調査区Ｂ２・Ｂ３で検出した柱穴列で、柱穴は直径が２０㎝前後を測り、深さは２０㎝を測る。柱間は約１．２ｍを測る。遺物は出土していない。

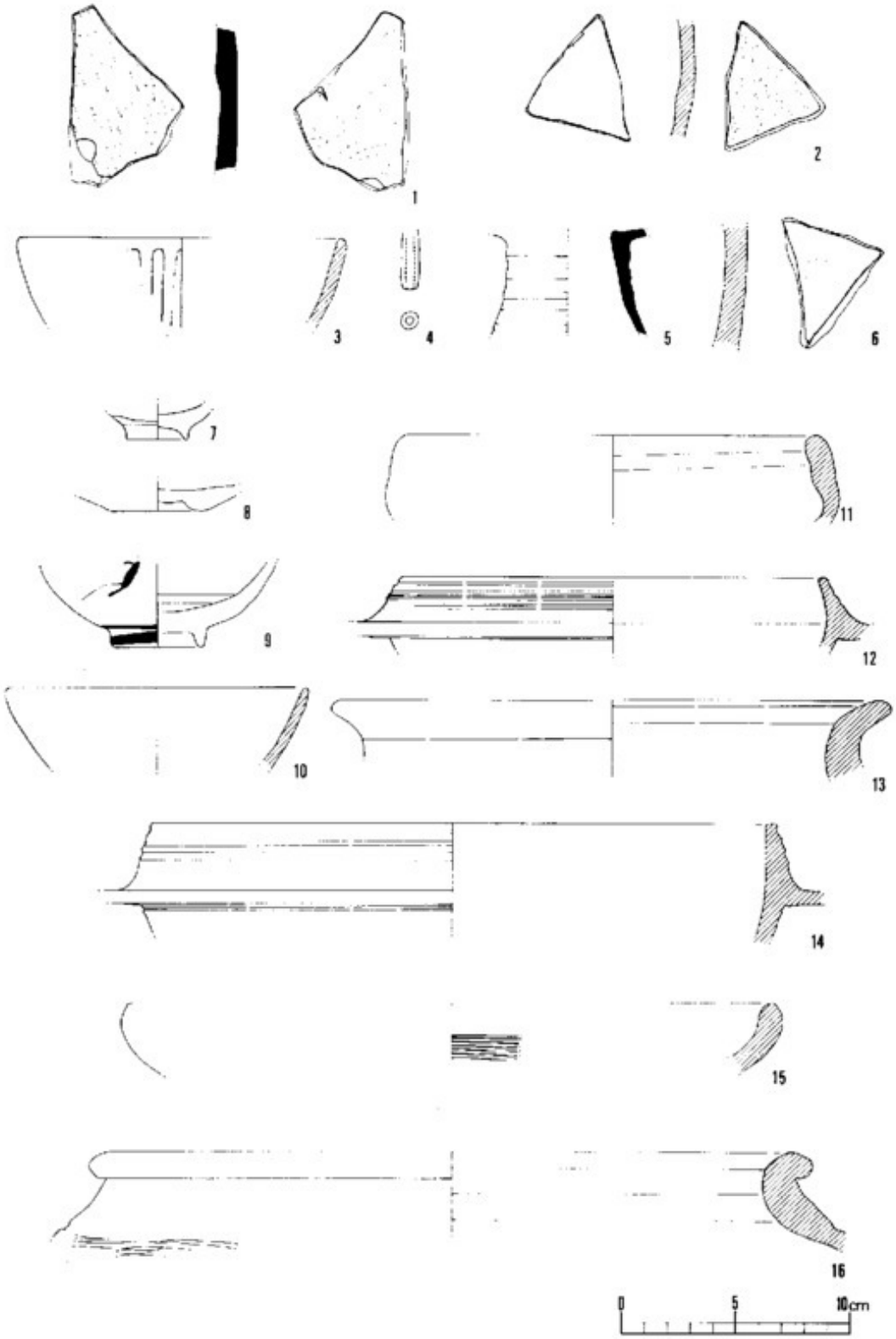
第３節　包含層の出土遺物（第５図１～１６）

出土遺物のほとんどは包含層から出土しており、すべて破片である。

１は須恵器の甕の体部である。内面、外面共にタタキが施されており、堅く焼きしめられたものである。２は瓦質の甕である。外面にはたたきが施され、内面には多方向への刷毛目が認められる。３は青磁の碗である。施釉が厚い。４は土錘であるが、時期はいずれとも決し難い。５は須恵器の高杯の脚部である。６は陶質の擂鉢であるが産地などは不明である。７は磁器で盃状のものとおもわれる。８は磁器であるが、器種は不明である。９は伊万里の染付碗で外面の呉須の発色が淡い。みこみには釉を蛇の目に掻きとった跡が見受けられる。１０は青磁の碗である。１１は土師質の鉢である。１２は瓦質の羽釜である。１３は瓦質の甕で１４は瓦質の羽釜である。１５は土師質のほうろくと思われる。外面に煤が付着している。１６は瓦質の甕である。

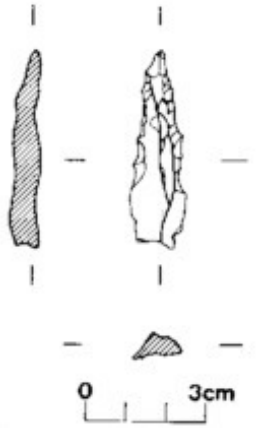
第４節　遺構の遺物（第６図１７）（第７図１８）

遺構から出土した遺物としてはＮＲ－１から少量の弥生土器の破片とサヌカイト製の石錐と磨製石斧が出土している。１７はサヌカイト製の錐で、やや細身である。錐の部分は細部の調整がなされているが、片面は剥離したままで未調整である。１８は磨製石器の石斧である。石斧は刃部及び刃縁が欠損してお



第５図　出土遺物　(1)

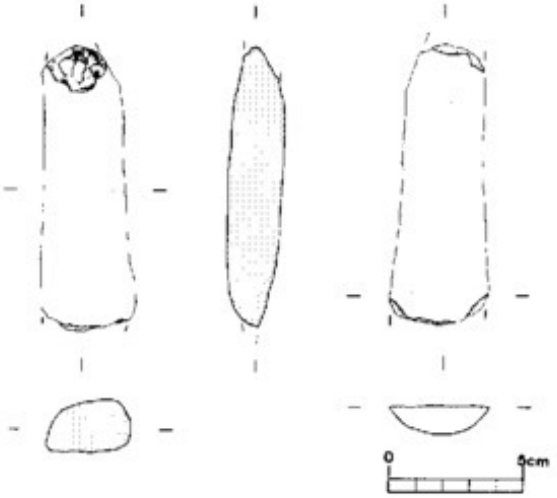
り、基端も欠損している。刃は弱凸強凸片刃である。刃面の幅は残存していることろで3．6㎝を測り、基部の厚みは1．9㎝を測る。



第6図　出土遺物(2)

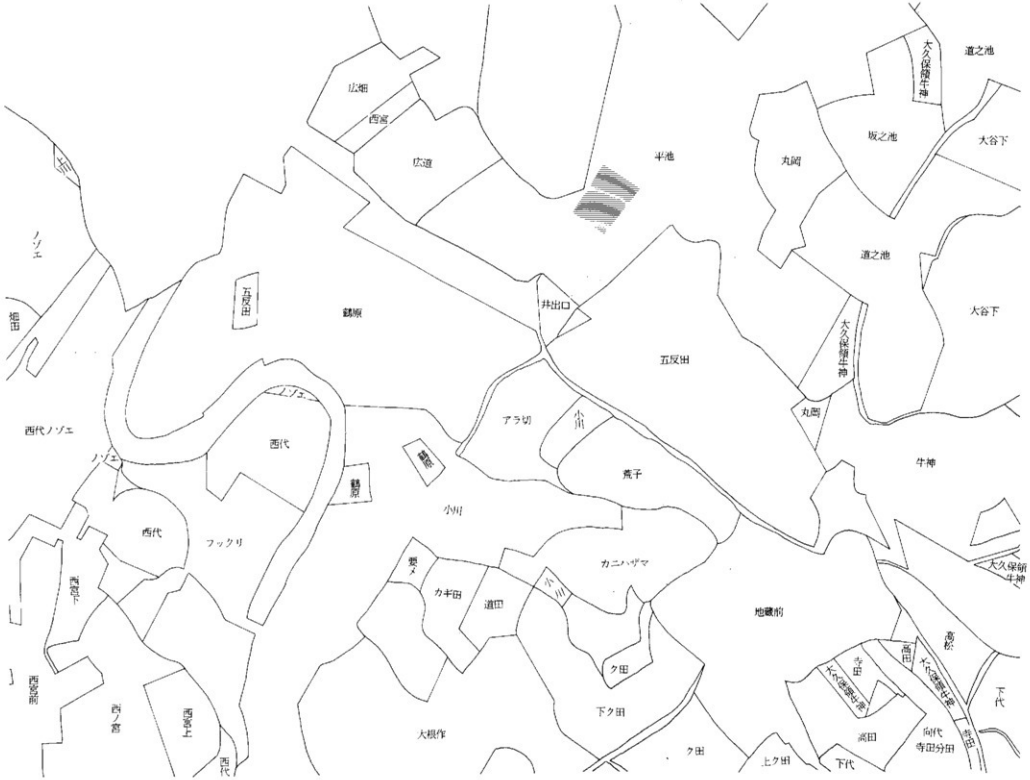
第5節　まとめ

当該地での調査では、川とみられる自然流路と中世以降のものと思われる畝畔が土層断面で確認が検出され、少量とはいえ弥生土器をはじめとしてサヌカイトの石錐・磨製石斧など弥生時代の遺物も出土している。これらの状況と断片的ではあるが既往の調査で得られた資料とを重ねて判断すると、大久保D遺跡の周辺に弥生時代の集落若しくは、住居址などの遺構が存する可能性は極めて高く、中世以降に耕地化が進んだものと考えられる。



第7図　出土遺物(3)

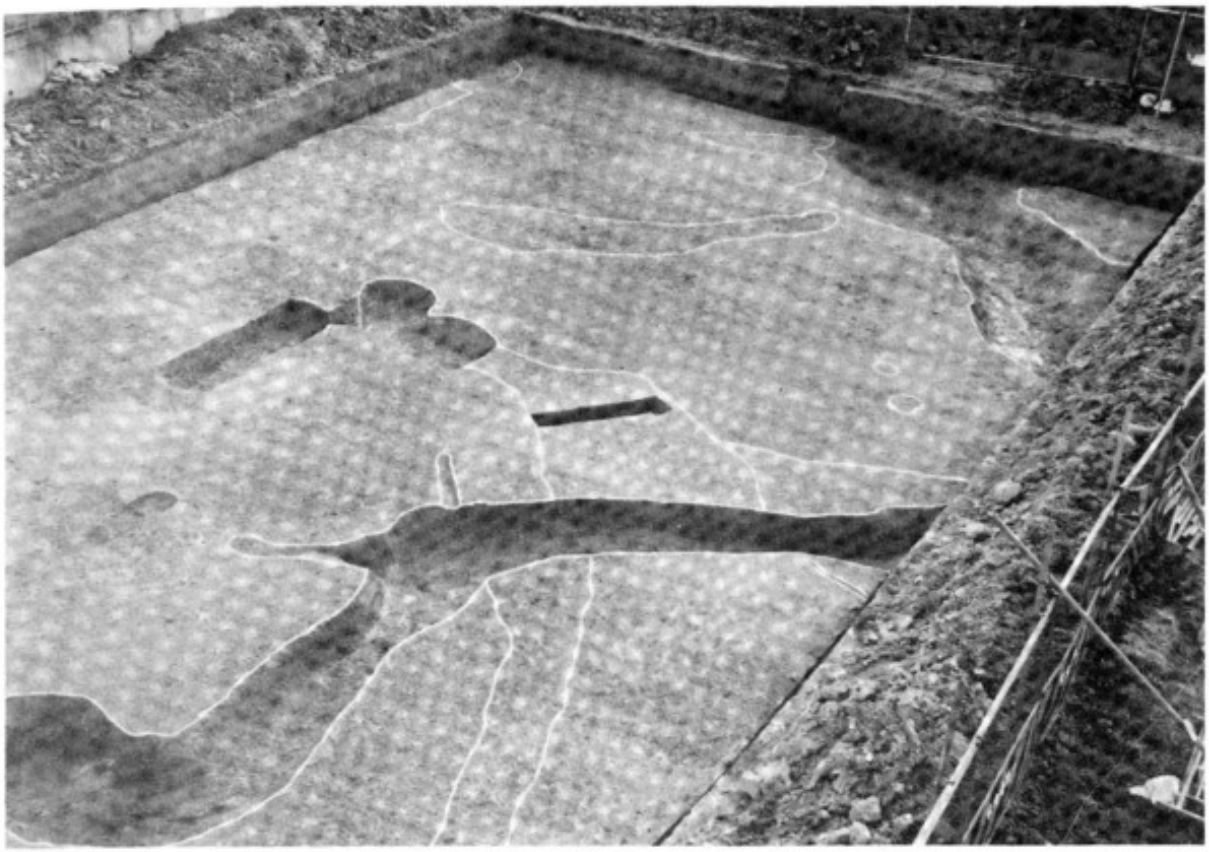
ここ数年の周辺での開発行為の急激な増加を思えば、今後も継続して計画的に調査が必要であり、また遺跡の性格とその範囲の追及が急務であるとおもわれる。文末となったが、今後も周辺での事業の進捗に伴い、大久保D遺跡に対しての十分な配慮と万全の調査体制の確保を関係各位に切にお願いして終わりとしたい。

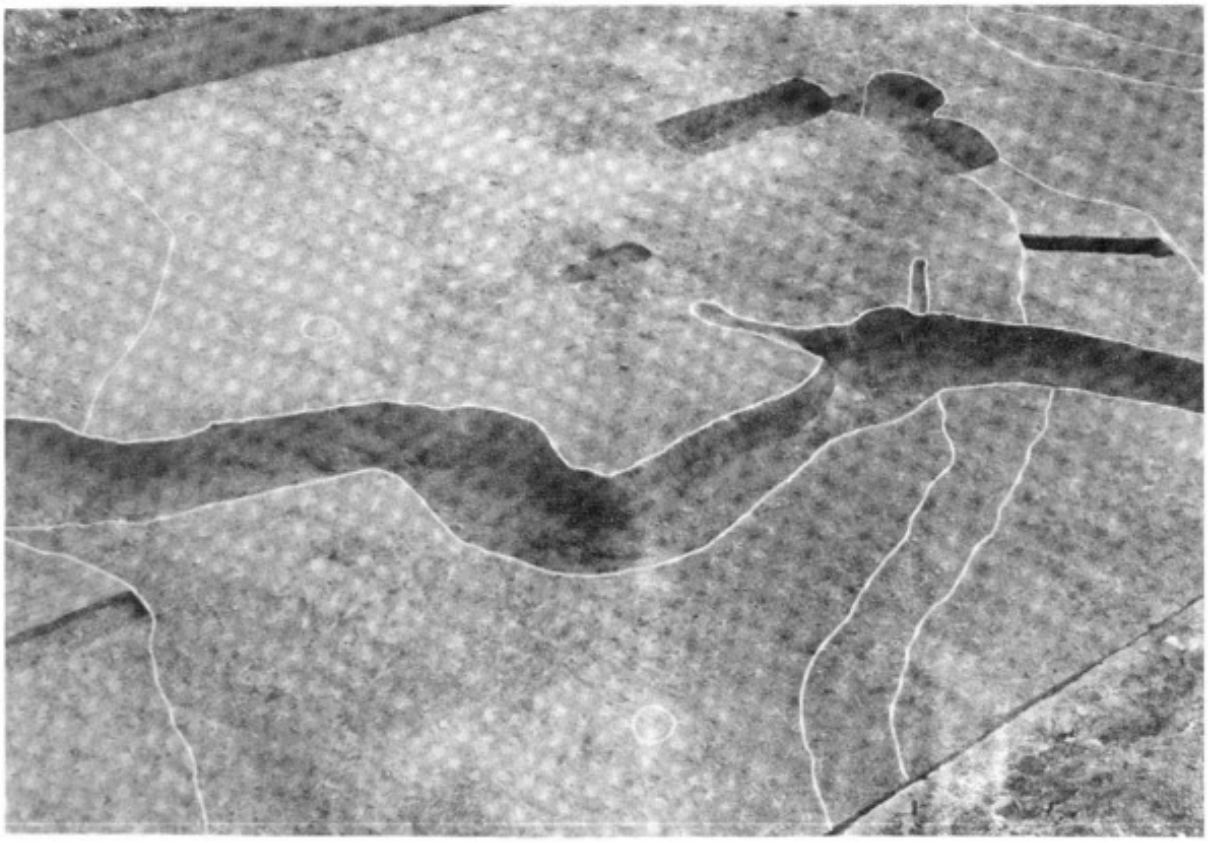

広畑
西宮
広道
平池
丸岡
坂之池
大久保牛神
道之池
大谷下
ノゾエ
五反田
鶴原
井出口
五反田
道之池
大谷下
大久保牛神
丸岡
牛神
西代ノゾエ
西代
ノゾエ
鶴原
アラ切
小川
荒子
小田
西代
フックリ
カニハザマ
カキ田
道田
小川
地蔵前
大久保朝牛神
高松
西田
寺田
大代遠藤代
寺田
下代
ク田
下ク田
大根作
ク田
上ク田
下代
高田
向代
寺田分田
西ノ宮
西ノ宮
西代

第8図　周辺の小字名

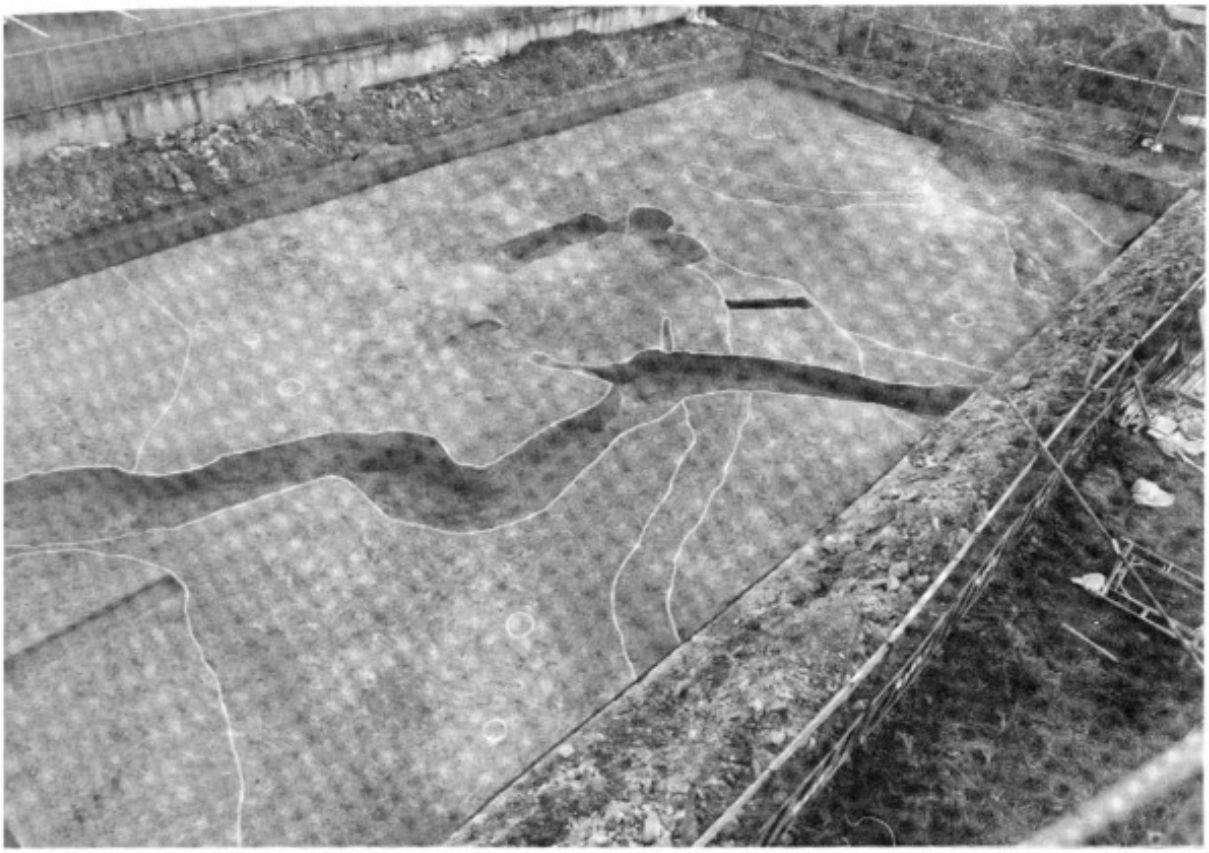
図　　版

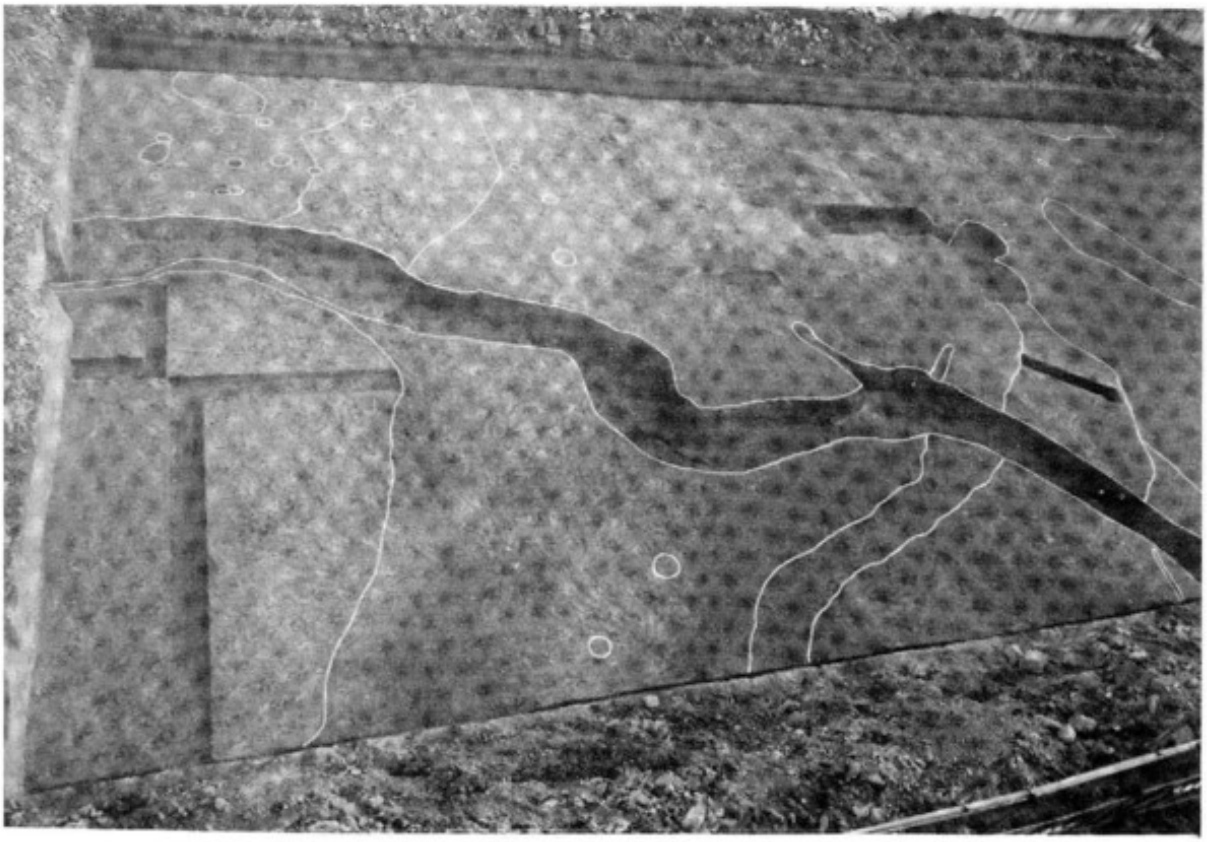
図版第一　検構検出状況

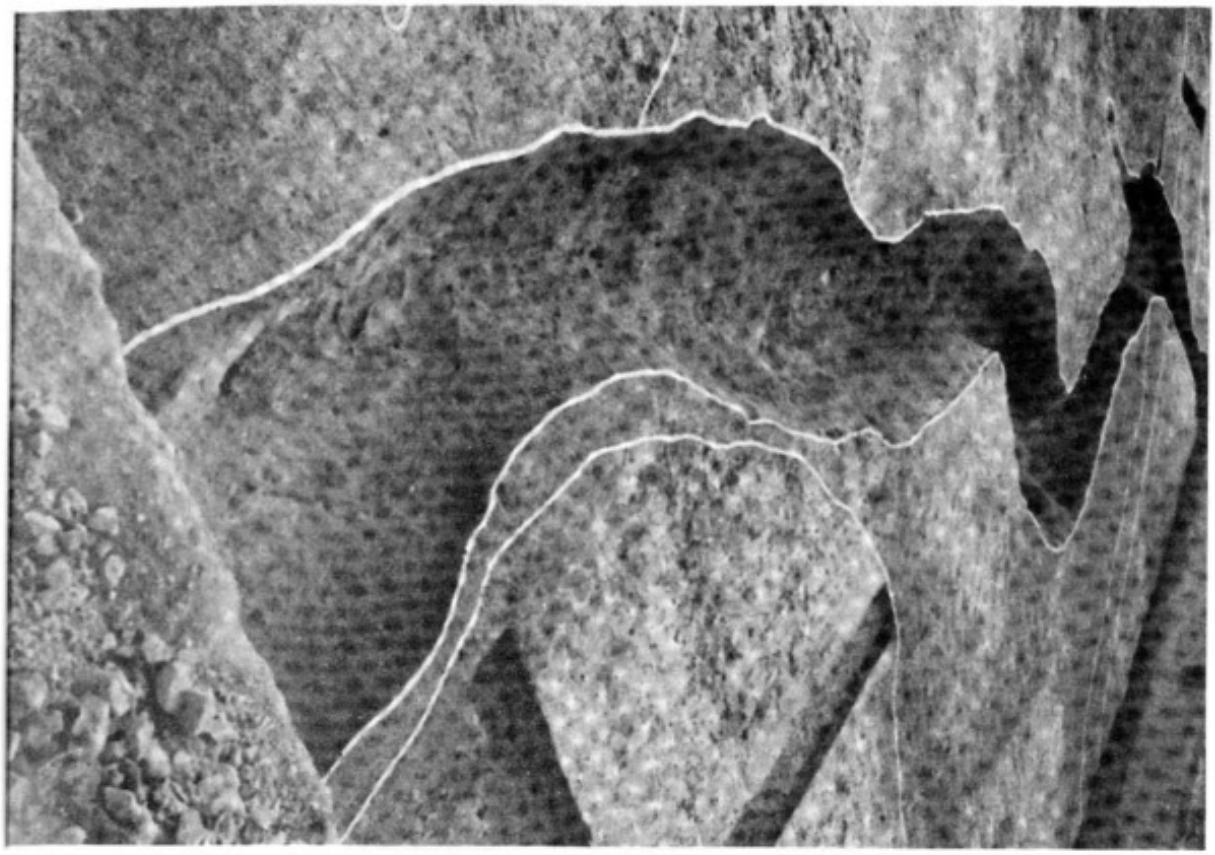


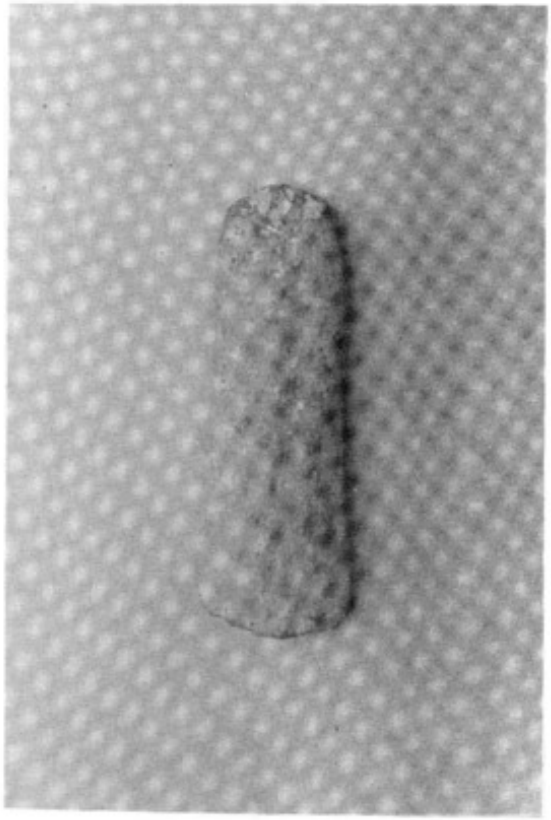


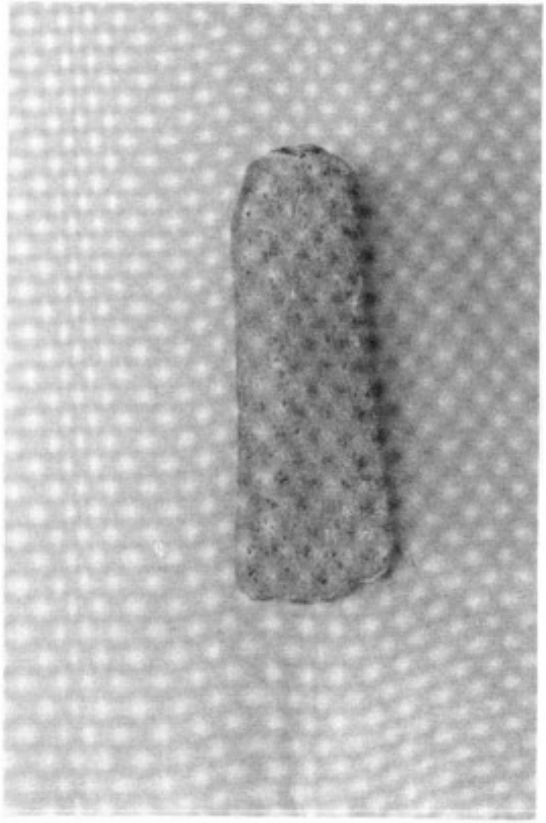
図版第二　遺構検出状況



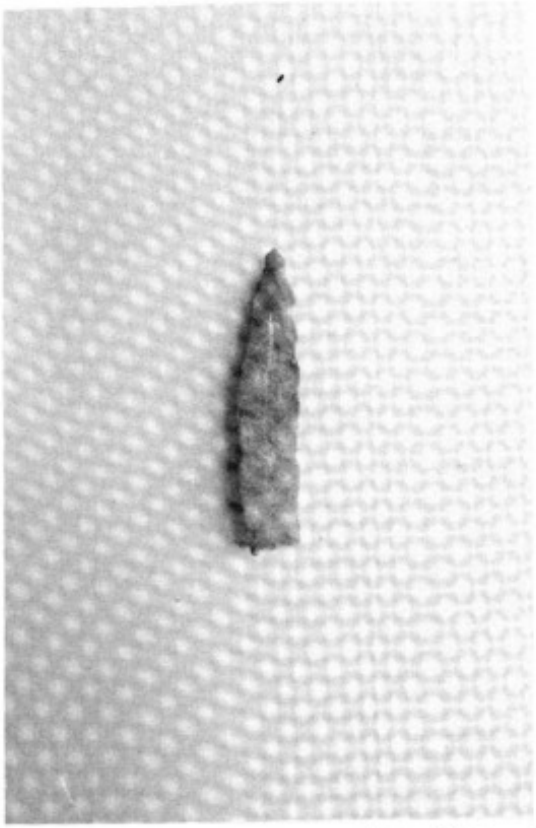




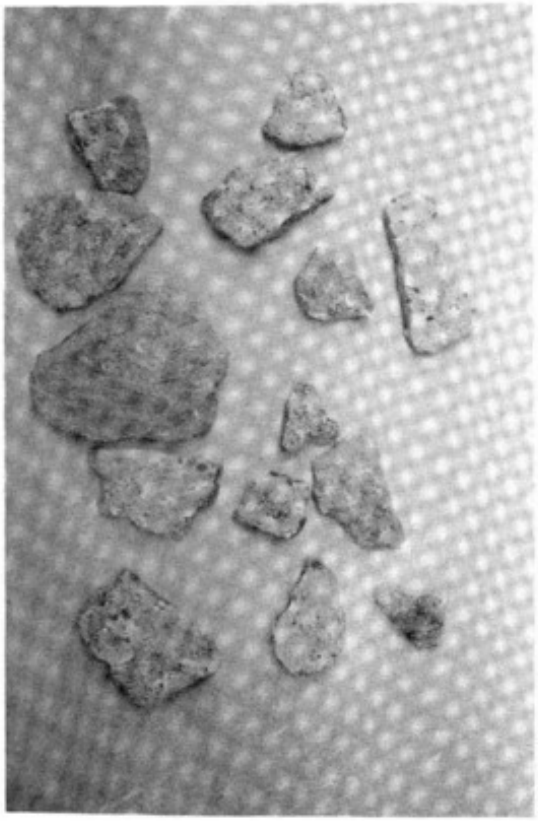


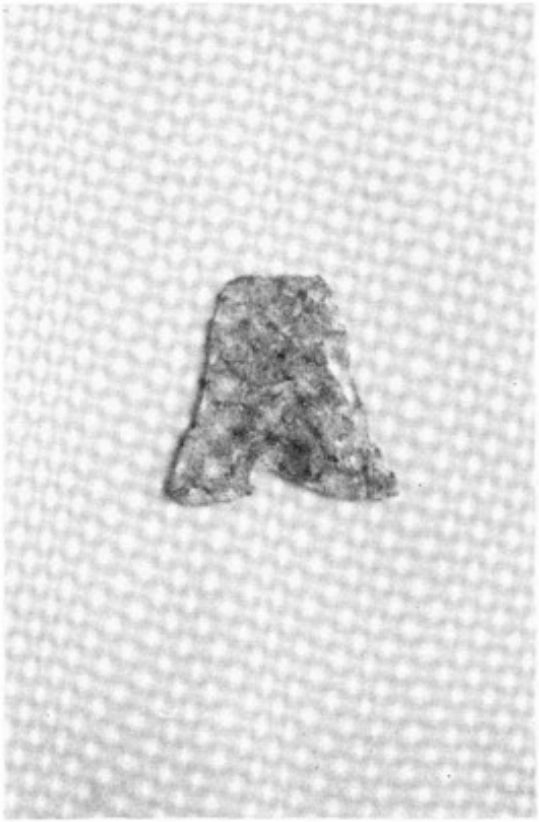


大久保D遺跡88年－1区出土　磨製石斧



大久保D遺跡 88年－1区出土　サヌカイト製石鏃





大久保B遺跡 88年－1区出土遺物